

〔雅亮裝束抄〕ひめ君のさうぞく

とらの日略中するひたひかみあげまうく

〔類聚雜要抄五節雜事〕一理髮具

末額髮二流末七尺但不注定文内々事也

〔空穂物語あて宮〕なかたゞの中將の御もとより、蒔繪のをきぐちのはこよつに、ぢんのさしぐし

よりははじめ略て中よき御するひたひさいしもとゆひえりぐしよりははじめてあり

〔新古今和歌集十〕后にたちたまひけると略とき、冷泉院の后宮の御ひたひをたてまつり給けるを

出家のとき返したてまつり給とて

東三條院

そのかみの玉のかざしをうち返し今は衣のうらをたのまん

〔八代集抄新古今〕玉のかざしとはひたいとて、女房の裝束の時髮あげとて、おほひかづらのや

うにする物也

付髮

〔雅亮裝束抄二〕みづらをゆふこと

ちごをさなくて、かみみじかくは、べちにつけがみといふものをもとゆひたるうへにゆひつけ

てゆふなり、そのかみなどをよくゆひなどして、おとしなどすまじきなり

〔殿曆〕康和五年十二月九日甲寅、今日威德藤原殿上中於出居威德著裝束註裝束結鬢註

鬢具ハ打亂宮ニ敷檀紙置也付髮紫糸フツカニヨリタ油三筋鹽油綿を入、下略

〔台記〕久安元年十二月四日甲辰、一昨日攝政藤原參鳥羽、奏請延引行幸、勅曰、莫延傳聞、行幸間御

總角付髮於路無故落失了云々、若不祥之象歟、後日頭中將語云、件付髮數日置殿上御倚子邊、裏紙

置之、不知何人所爲

〔山槐記〕治承四年四月廿二日甲辰、今日皇帝安於紫宸殿註即位中藏人頭重衡朝臣云、御禮